

## VI 登録罹患者の5年相対生存率

本集計の対象は、2011年1月1日から2011年12月31日までの間にがんと診断されたものである。

生存率計測は予後不詳の罹患者割合を対象者の5%未満に留めることを目標とされている。

本登録室は人口動態調査死亡票の照合による確認のみで、通常生存確認調査は実施しておらず、県外転出により死亡の情報を得ていない罹患者を生存とみなして扱うため、実際より生存率を高く見積もっている可能性がある。

相対生存率はがん以外の死因により死亡した罹患者情報を把握していない場合、がん以外による死亡を補正するものであり、一般住民群について生命表から求めた期待生存率に対する実測生存率の比である。

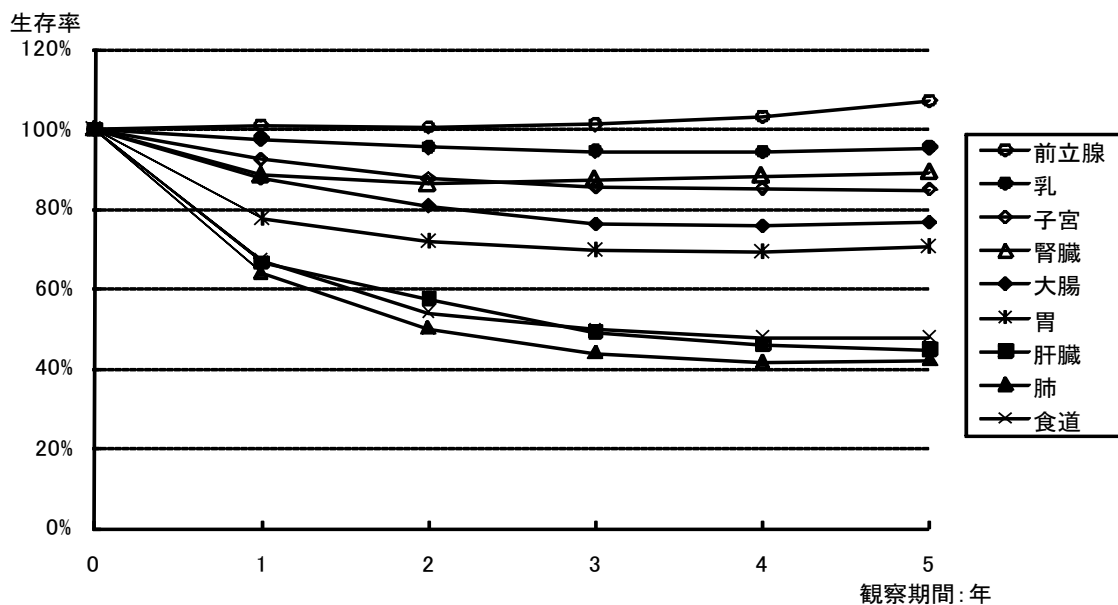
$$\text{相対生存率} = \text{実測生存率} / \text{期待生存率}$$

算定の条件として

- 1) 死亡情報によって本登録室が初めて把握した症例（DCN）で補充調査により生前の医療情報を得ることができた症例は診断日より対象とした。
- 2) 死亡情報のみで登録された症例（DCO）は除外した。
- 3) 上皮内がんのみの症例は除外した。
- 4) 多重がんの症例は第一がんを集計対象としているが、第一がんが上皮内がんの場合は第二がんを集計対象とした。

部位別の5年相対生存率を示した（図25）。

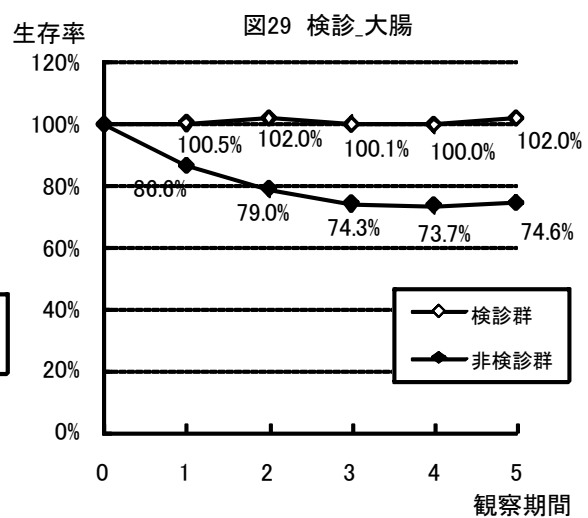
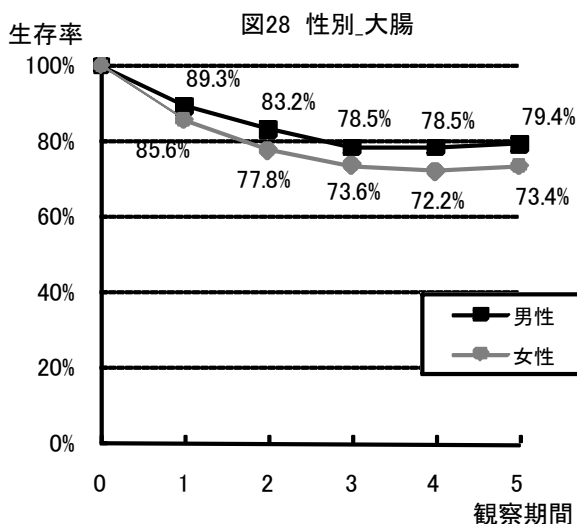
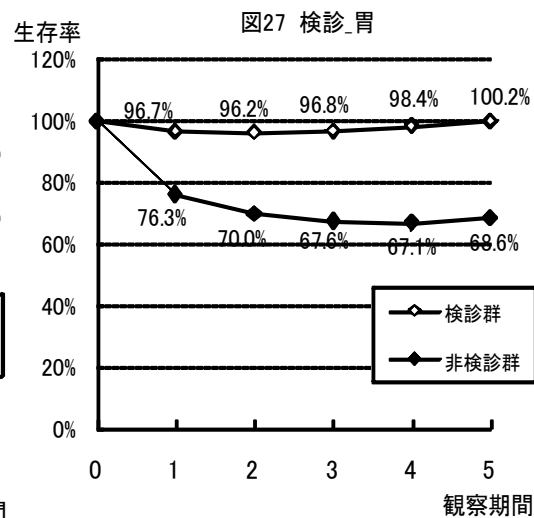
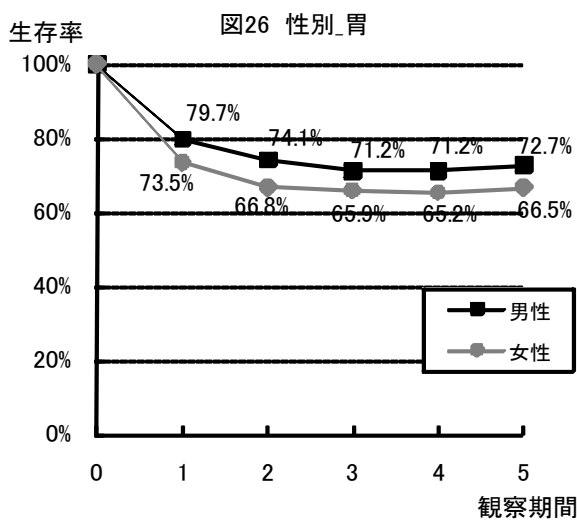
図25 部位別5年相対生存率 男女計 2011年

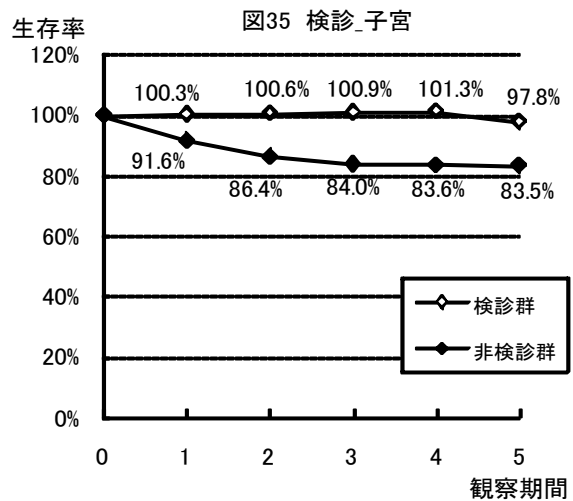
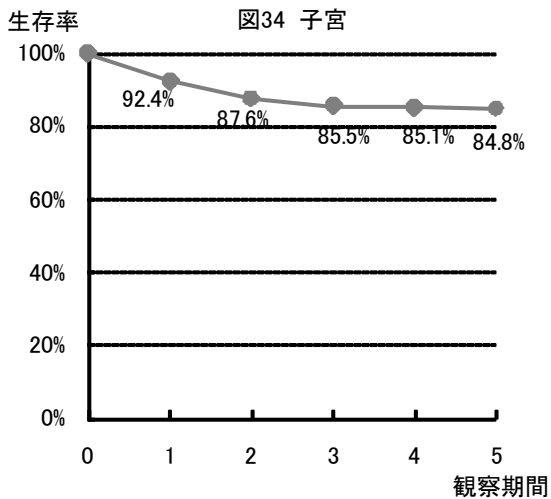
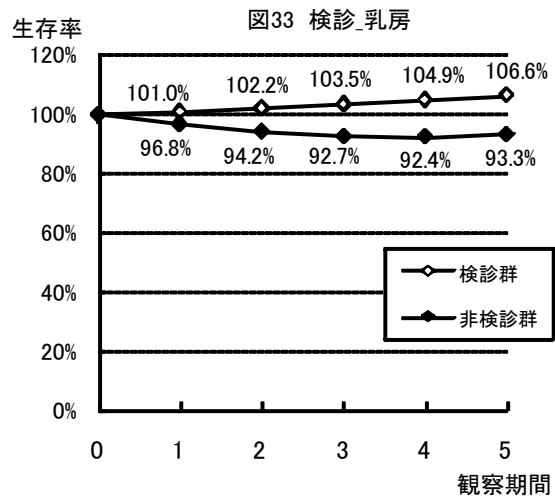
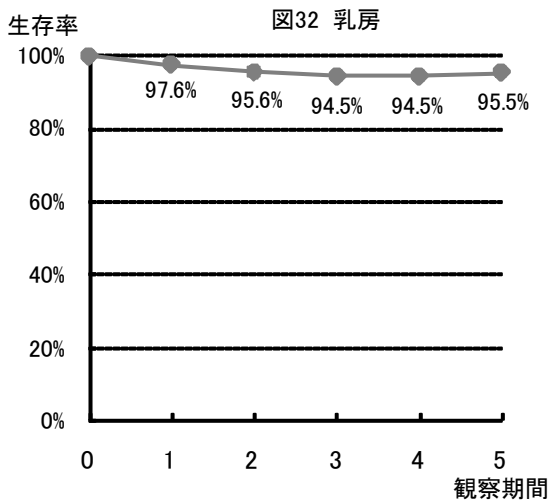
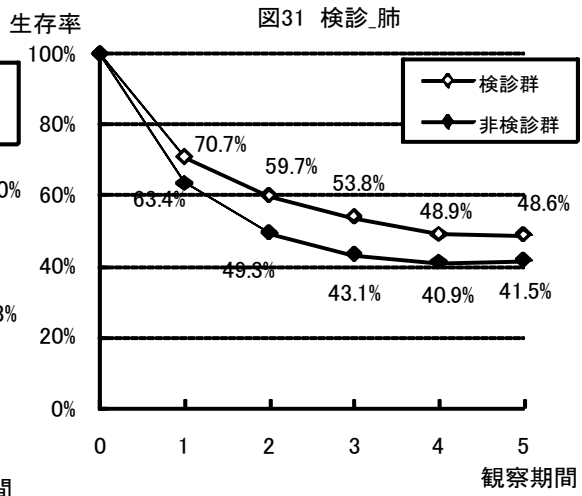
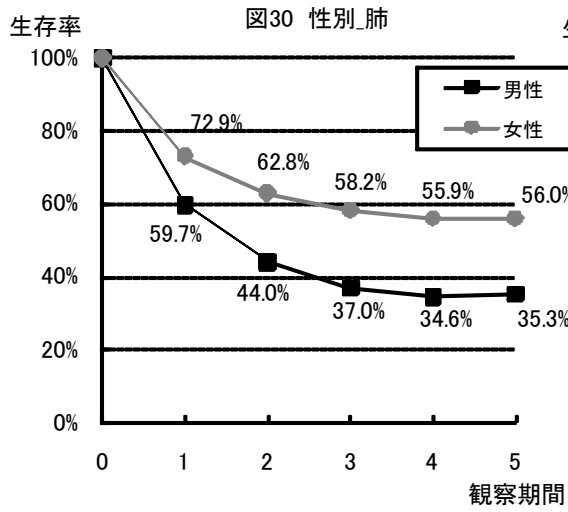


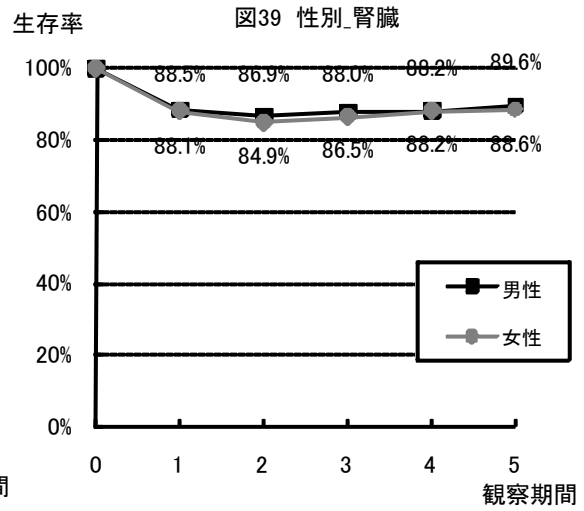
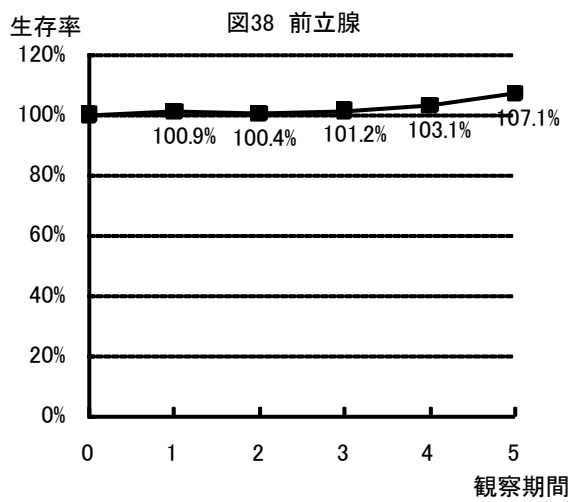
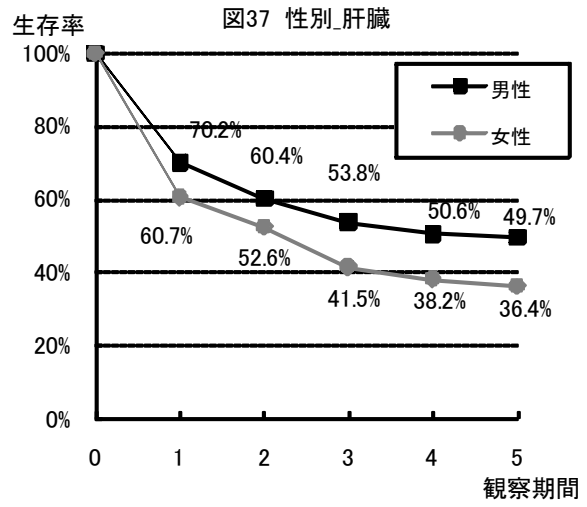
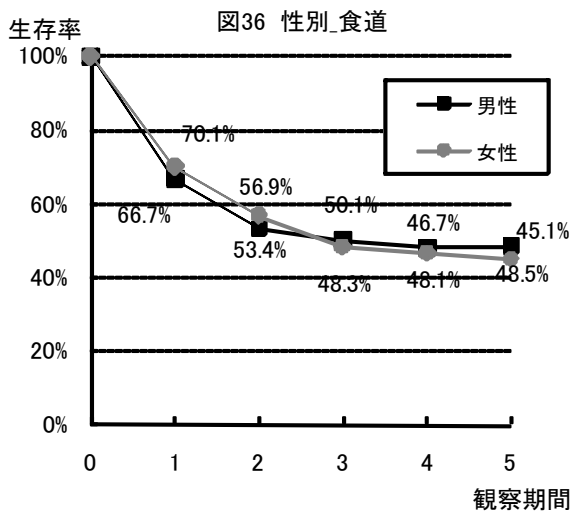
9 部位について性別の 5 年相対生存率を示し、うち胃、大腸、肺、乳房、子宮の 5 部位に関しては検診・非検診群別の生存率も示した（図 26～39）。

男女別にみると、胃と大腸、肝臓、腎臓では男の方が 5 年相対生存率は高く、肺については女の方が高くなっている。

検診・非検診における 5 年相対生存率は、検診群の方が胃で 31.6%、大腸で 27.4%、子宮で 14.3%、乳房で 13.3%、肺で 7.1%高くなっている。







【参 考】 部位別 5 年実測生存率を示した。

2011年 部位別実測生存率(性別)						
		(単位:%)				
生存年数		1年	2年	3年	4年	5年
部位・性別						
食道	男	64.8	50.6	46.4	43.3	42.5
	女	68.2	54.5	45.5	43.2	40.9
胃	男	76.7	68.8	63.8	61.3	60.1
	女	71.0	62.8	60.3	58.0	57.3
大腸	男	86.4	77.9	71.1	68.6	66.9
	女	82.6	73.1	67.3	64.3	63.4
肝臓	男	67.7	56.5	48.8	44.5	42.4
	女	58.4	49.1	37.6	33.6	31.0
乳	女	96.4	93.1	90.9	89.6	89.3
子宮	女	91.5	86.1	83.4	82.4	81.4
肺	男	57.2	40.6	32.9	29.8	29.4
	女	70.8	59.7	54.2	51.0	50.1
前立腺	男	97.3	93.4	90.5	88.5	87.9
腎臓	男	86.4	83.1	82.2	80.5	79.7
	女	86.2	81.5	81.5	81.5	80.0

2011年 検診群部位別実測生存率(検診・非検診別)						
		(単位:%)				
生存年数		1年	2年	3年	4年	5年
部位・検診群						
胃	検診群	94.6	91.9	90.1	89.2	88.3
	非検診群	73.5	65.1	60.8	58.2	57.1
大腸	検診群	98.3	97.4	93.2	90.6	89.7
	非検診群	83.6	73.9	67.4	64.7	63.3
肺	検診群	68.1	56.0	49.5	44.0	42.9
	非検診群	61.0	46.0	39.0	36.0	35.4
乳	検診群	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	非検診群	95.5	91.7	89.1	87.5	87.1
子宮	検診群	100.0	100.0	100.0	100.0	96.2
	非検診群	90.7	84.8	81.8	80.7	79.9